

Fashion

人事のファッション機能学

人事のプロとして 信頼される服装

服装にはその人の社会的役割をイメージさせる機能があり、果たすべき役割に合った服装をすることで相手に信頼感を与え、コミュニケーションを円滑にします。今回は人事のプロフェッショナルにふさわしい服装とは何かを考えていきましょう。

人事はさまざまな部署と交流があり、社内では常に見られている存在。服装に無頓着では、活力がなく、仕事に対しても消極的な印象を与えかねません。経営の視点から人事戦略を提案し、実行できるプロフェッショナルな人事として周囲から信頼されるには、プロとして物事を掘り下げて考える姿勢を服装でも表現したいものです。

そのために大事なものは、自分の「流儀」を持つこと。ビジネスの服装の基本である「清潔感」と「時代感」を意識したうえで、自分の基準で選んだものを着ることです。洋服選びに自信がなければ、専門店や百貨店などで1つのアイテムを値段によって見比べたり、

ADVISER

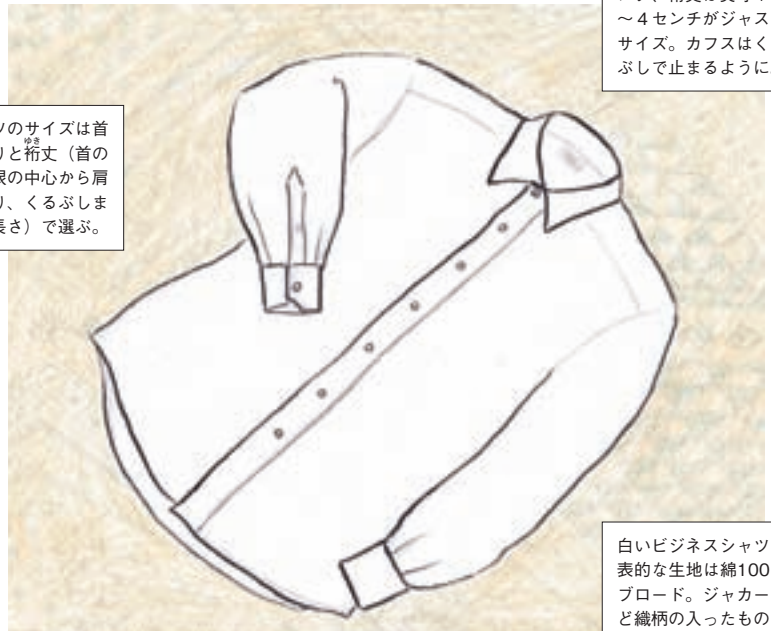


政近 準子氏

ファッションレスキュー
代表取締役社長
パーソナルスタイリスト

Masachika Junko_アパレルのデザイナーを経て、2001年個人向けスタイリングを行う「ファッションレスキュー」を創業。顧客は政治家、経営者など1万人を超える。

ファッションには、自己確認や強化の機能、他者に情報を伝える機能などがある。この機能を利用して、人事が直面する課題に活路を見出すことができないか。パーソナルスタイリストの政近準子氏が語る。



シャツのサイズは首まわりと桁丈（首のつけ根の中心から肩を通り、くるぶしまでの長さ）で選ぶ。

首まわりは実寸+2センチ、桁丈は実寸+3~4センチがジャストサイズ。カフスはくるぶしで止まるように。

白いビジネスシャツの代表的な生地は綿100%のブロード。ジャカードなど織柄の入ったものを選ぶと上質感が出る。

試着してみたりしてください。高いものはなぜ高いのかを自分なりに研究していくと、差異がわかってきます。

プロフェッショナルとしての信頼感を表現するために、まず白シャツをきちんと選んでみてはどうでしょうか。シャツの生地は、綿100%がビジネスの場にふさわしい上質感が出ます。形状記憶シャツは便利ですが、洗練されていない印象を与える危険性があります。やはり、手間をかける必要があるものほど、上質に見えるのです。

また、糸番手（糸の太さの単位）や織りの違いによっても上質感に差が出ます。糸番手は、数が大きくなるほど、光沢が増します。50番手以上であれば、ビジネスで着用しても問題はなく、80~120番手になると高級感があります。糸番手の話ができる販売員もなかにはいます。上質感が欲しければ、シャツ選びを任せても良いでしょう。

織りは、平織りまたは綾織りが一般的です。ブロードやオックスフォードなどの平織りは摩擦に強く、ツイルやヘリンボーンなどの綾織りは、伸縮性に優れ、シワもよりにくいです。必ず試着して着心地の差も覚えましょう。

体のサイズに合ったものを選ぶポイントは上のイラストに示しましたが、襟の開き方も顔映りに大きく影響します。ジャケットのラベル（下襟）やネクタイとのバランスを考えると、太めの体型の方は、ワイドスプレッドカラー（襟の開き具合が100~140度）、細めの方はセミワイドカラー（襟の開き具合が90度前後）が、おすすめです。

シャツひとつでも研究して選べば、人からの見え方も変わってきます。仕事にも探究心を持って取り組んでいると感じさせます。また、自分で納得したものを着れば、自信や余裕も出てくるのではないのでしょうか。